市長雑感

(50)

先日若い人と思うが、きつい調子の投書をいただいた。〝老人福祉をもっと考えろ〟といったものだが、趣旨はごもっともであり、しかも若い人からの意見だけは私自身卒直に耳をかたむけたいと思う。もちろん老人医療の無料化、高齢者就労対策事業の導入などを始め、老人福祉については他市に先がけ、かなり先取り行政を推し進めてきていると自負はしているが、これで十分とは考えていない。

厚生省人口問題研究所の老人人口の推計でも昭和七十年には六十歳以上が十七・五七%、六十五歳以上で二・九八%にも達することが発表されているので、高齢社会の対応を真剣に考えなければならない状態である。若い人の主張を待つまでもなく、老人福祉に限らずできるだけ先取り行政を推進していく考えである。

先月十日オープンした老人福祉センターも、地域のお年寄りの皆さんから大変喜ばれ、連日利用者でいっぱいであり、係員もその応接に大わらわである。利用者の立場で万全の方法を考えたとはいうものの、スタートしがけだけに、不都合の面がないかどうか、みなさんの声を聞きながら今後の運営等についてさらに検討を加えていきたいと考えている。外まわりの整地、駐車場、生け垣など、またこれから手がけていく仕事が沢山残されてはいるが、周囲の環境づくりはお年寄りの憩える場所にふさわしいものにしたいと考えている。なお今月の十五日は敬老の日でもあり、また完工を祝し一定期間センターの無料開放も考えているので、折角の施設をお年寄りの皆さんから大いに利用していただきたいと思う。

さらに進めたい先取り行政

忘田保

幼児たちが宿泊をおして楽しく交歓

初めての計画は新関地区で

「みんなでいっしょに寝たんだョ」

「きもだめし、こわかったワ」…

八月十日、十一日の両日、新関地区へき地保育所の子どもたちがいっしょになって、小口保育所で当市では初めての「交歓合宿」を行いました。

新関地区には、小口・新関中央・六郷と三つの保育所がありますが、ここの保母さんたちが卒先して、子どもたちに想い出多い夏の一日をと、来春入学する白組園児二十七人を対象に、宿泊を通した交歓の場を計画したものです。

▽親睦をはかって　▽夏の自然に親しんで　▽共同生活を経験して——楽しい合宿プログラムは、自分の名前と好きなものなどを、みんなの前ではっきり話す「自己紹介」からはじまりました。

みんなで歌い、みんなで踊る。初めてうちとけ合う友達同志。親近感も一層深まる。中食の肉汁には、みんなで舌づつみ。スイカ割りゲームでは、一人ひとりが全員経験。規律正しい生活プログラムはチビッ子たちの楽しい〝ユメ〟をのせて、順序よく展開されていきました。

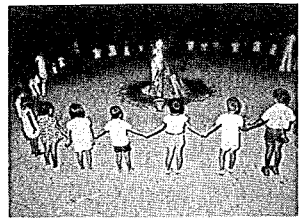
この日の夕食メニューは、大好きなカレーライス。何ばいもおかわりするチビッ子たちに、世話係をかって出た地元のお母さんたちの顔もほころぶ。

夜のハイライトプログラムは、キャンプファイヤーときもだめし。赤あかと燃える火を囲んで花火も楽しむ。近くの小学生たちも集まって、いっしょに夏の夜のひとときに、親しみました。

「健康管理やゆき届いた養護に一番気をつかいました」と保母さんたちのいう一泊二日の合宿日程。もう少しいたい——ゴキゲンなチビッ子の願う声でした。

知らぬ友だちともうちとけあって楽しくお遊戯

野外パーティ？も〝豪華版〟

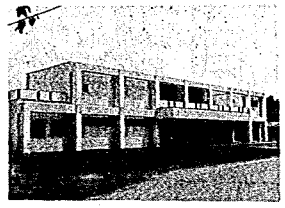


〝交歓の輪〟は大きく広がって

マイホームの資金づくりから設計施行まで…
高級木造住宅設計・施行
新潟建設株式会社
新津市役所となり　TEL②7151

老人福祉センター完成を記念 無料で開放

十日から二十日



利用待つ老人福祉センター

お年寄りの〝憩の施設〟老人福祉センターが先ごろオープン。連日ここを利用されるみなさんで活気にあふれています。

九月十五日は「敬老の日」ですが、市では、このお年寄りの日と、老人福祉センターの完成を記念して、市内の六十歳以上のみなさんに、次の期間、この施設を無料で開放することにしました。

閑静な個室から豪華な浴室お年寄りのための設備はバッチリです。大いにご利用、お出かけください。

無料となる期間

九月十日（火）から二十日（金）までの午前九時から午後四時まで

なお、休館日　〈九月十七日、十八日〉は、無料開放期間中も休みます。

古今川柳漫歩

(29)

十億円のダイヤ

阿達義雄

一億円又は何億円という金になると、庶民には夢にも見られぬような大金であって、我々庶民の夢みられる金といえば、精々、宝クジの一千万円、クジ付定期の賞金の一千万円というところであろう。もちろん、それも夢の夢であろうが。

●一千万の夢におぼれる列つくり　（今井七郎）

●一千万円当たらず電柱に突きあたり（石田宝太）

四十七年度に、一億円の句に次のようなのがあった。

●一億の印税の使途気にかゝり　（村川ひろし）

これは有吉佐和子の『恍惚の人』の印税について詠んだもので、その他、数年前の三億円の強奪事件を、ふと思い出して詠んだ句に、

●三億はどこへ行ったか神かくし　（吉田芳雲）

この三億円は事件直後、頻りに句にされていたものの、今では既に忘れられてしまった観がある。

札幌オリンピックに何億もの金をかけたが、日本選手の得たメダルは三つに過ぎないとして、

●何億もかけてメダルを三つとり　（江良正史）

というのも見える。これは公費であったから個人個人には、あまりピンとこない金である。

これよりも遙かに額の多い金を詠んだ句としては、国鉄の句がある。

●一兆円赤字に職員只で乗り　（美枝子）

次に、昭和四十八年の新聞や世評を賑わした滋賀銀行の女行員奥村彰子の詐取金額になると、最初は四億円と言われていたが、調査が進むにつれて、或いは七億と言われたり、九億とも称されるようになったりして額が次第に多くなり、関係者を驚かせたのであった。

何しろ、ハイミスの恋愛が絡んでおり、蔭に情夫が糸を引いているらしいというので、この空前絶後の「つまみ喰い」は、何か事あれかしと祈っていた川柳子が手ぐすねを引いて待っていたような事件であったが、その金額の巨額さと、殆んどその全金額を情夫に推きあげられたという呆気なさに、さすがの川柳子にも歯が立たなかったようである。九億という金額には歯が立たなかったとはいえ、この金額に対し

●起重機でも持たれぬ金をつまみ食い　（太平楽）

「つまみ食い」という、けちくさい感じの語に対して、でっかい起重機とは恐れ入った着想である。

九億円の金ともなれば、「一度に持て」と言われたら、いかに恋人のためとはいえ、小柄な「チェホフの〈可愛いい女〉のような」彰子には、とても持ちきれず、担ききれず、その金の重さで押し潰されてしまうであろう。

九億円とは、そのように想像する外はない金額である。

百円、千円の金でスーパーで右往左往している家庭の主婦達には、億の金をいとも簡単に右から左へとやる〈つまみ食い〉、いや、その〈つまみ食い〉の巨額さには、ただ〈固唾（かたず）を呑んだり、呆れたりするばかりで、批判するどころではなかった。

尤も、近頃は新聞の三面記事を賑わす事件にも、ぽつぽつと億台の金額が、「またか」と眺められる程のインフレ時代であるから、今や人々も「億」という金額にも次第に不感症になってきたようである。

それにしても、大デパートの特別展示会などで、現実に眼の前に億の値段の〈欲しい欲しい〉ダイヤでも見せられたとなると、『金色夜叉』のお宮を笑っていた女性でも、

●十億のダイヤ拝んで肩に息　（高橋省吾）

ということになり兼ねないであろう。

小さな溜息などではなく、全身を揺るがして出す「肩に息」とは、いみじくも言い当てたものである。

（新潟大学名誉教授）

表具
鈴木つしや
一級技能士　法定防火壁装工事店
訓練指導員　建設業登録店
本町3☎2-2035

唇とエナメルを中心に
新色発売……資生堂
心の中にロマンチックな秋の風景
本町2丁目　マツヤ　TEL (2)0418
第四銀行が向い。北越銀行がとなり